

印 オメガシリーズ

日立カップリング形管継手

配管用炭素鋼管
一般配管用ステンレス鋼管など] 兼用

- (社)日本水道協会品質認証センター認証登録品
- (財)日本消防設備安全センター性能認定品
(対象アイテムについては当社までお問い合わせください。)



オメガシリーズは、オメガグリップ®・オメガマルチ®・オメガリペア®の3種類を品揃えしています。

オメガグリップ・オメガマルチ・オメガリペアは日立金属(株)の登録商標です。



オメガグリップ



オメガマルチ

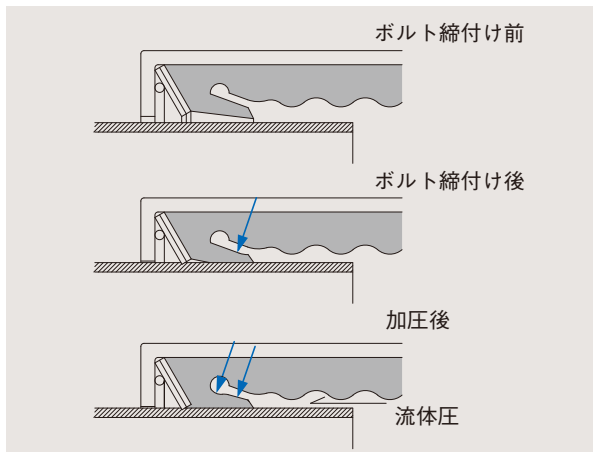


オメガリペア

◆ 特 長

1. 優れたシール性能

(オメガグリップ、オメガマルチ、オメガリペアに共通)
リップ構造のパッキンにより、パイプ外径のバラツキに対応して優れたシール性能を発揮します。また、リップ背面に流体が確実に入り込む構造となっているため、流体圧でシール面圧が上がり、長期にわたり安定したシール性能が得られます。



2. 簡単施工

(オメガグリップ、オメガマルチ)

パイプを挿入してボルトを締付けるだけで簡単に施工できます。ねじ加工や管端加工(グルーピング、管端つば出し加工)は不要です。

(オメガリペア)

パイプの漏洩部に組付けるだけで漏洩部の補修が可能です。



オメガグリップの場合

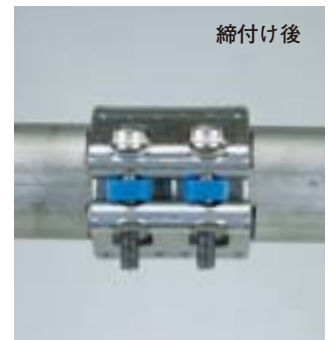
3. インジケータ機能

(オメガグリップ、オメガマルチ)

簡単に施工完了確認が出来るようにスペーサ(プラスチック製)をボルトに装着しました。
標準締付けトルクを目安に左右スペーサが均等に本体に当たるまで、2本のボルトを締付けてください。



締付け前



締付け後

4. 管引抜け阻止機能

(オメガグリップ)

ボルトを締付けると、写真のように継手内部に装着されたグリップリングの刃先がパイプ表面に喰い込んで、強いパイプ抜け止め性能を発揮します。



グリップリング

適用範囲

■用途

給水・給湯・冷温水配管など
(他の用途については、お問合せください。)

■許容使用温度

0℃～90℃

■適用管種

- JIS G3452 配管用炭素鋼鋼管
 - JIS G3454 圧力配管用炭素鋼鋼管
 - JIS G3448 一般配管用ステンレス鋼管
 - JIS G3459 配管用ステンレス鋼管
 - JWWA G115 水道用ステンレス鋼管
 - JIS K6741 硬質塩化ビニル管 (VP管)
 - JIS K6742 水道用硬質塩化ビニル管 (VP管、HVP管)
 - JWWA K116 水道用硬質塩化ビニルライニング鋼管 (SGP-VA、VB管)
 - JWWA K132 水道用ポリエチレン粉体ライニング鋼管 (SGP-PA、PB管)
- (管の外径が鋼管と同一サイズの管については、お問合せください。)



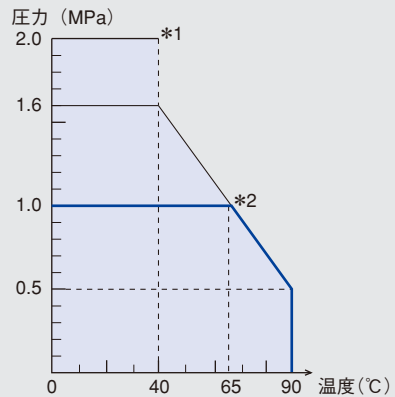
注意

- ・両側のパイプについては、外径の異なる異種管を接続しないでください。漏れや抜け出しの原因となります。
- ・ライニング鋼管を使用する際は、別売の管端防食コアを使用してください。

■許容使用圧力

下図の□の範囲内です。

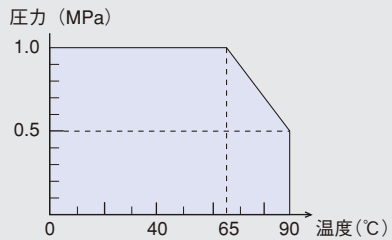
オメガグリップ



*1 消火設備用配管の最高使用圧力は、(財)日本消防設備安全センターの認定により2.0MPaまで使用できます。使用温度範囲は0℃～40℃です。

*2 一般配管用ステンレス鋼管の最高使用圧力は、1.0MPaです。

オメガマルチ・オメガリペア



注意

オメガマルチはパイプが抜けないように固定して使用した場合に、この許容使用圧力範囲となります。



注意

適用範囲に記載以外の条件では使用しないでください。製品本来の性能が出ない場合があります。



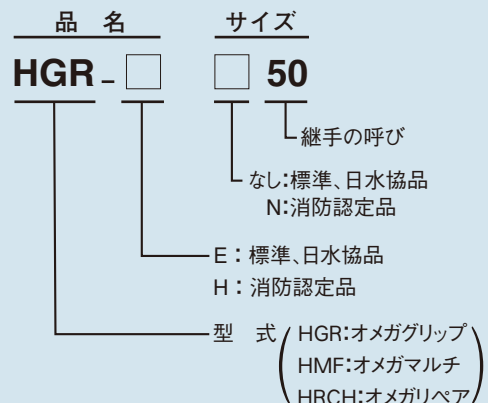
注意

硬質塩化ビニル管 (VP管)、水道用硬質塩化ビニル管 (VP管、HVP管) に使用する場合は、管の使用温度・圧力範囲で使用してください。

製作範囲

継手の呼び (A)	オメガグリップ			オメガマルチ		オメガリペア	
	標準	日水協品	消防設備認定品	標準	日水協品	標準	日水協品
	HGR-E	HGR-E	HGR-H	HMF-E	HMF-E	HRCH-E	HRCH-E
20	●	●					
25	●	●					
32	●	●					
40	●	●		●	●	●	●
50	●	●	●	●	●	●	●
65	●	●	●	●	●	●	●
80	●	●	●	●	●	●	●
100	●	●	●	●	●	●	●
125	●	●	●	●	●	●	●
150	●	●	●	●	●	●	●
200	●			●		●	

型式番号の説明

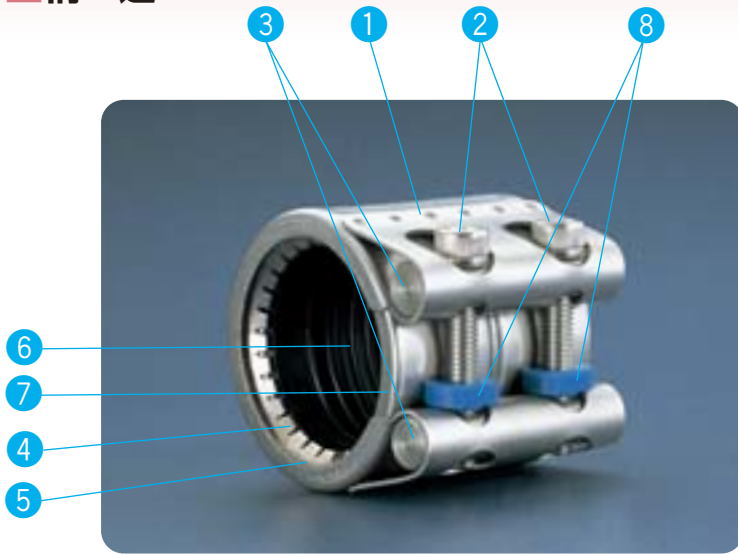


オメガグリップ (HGR-E, HGR-H)

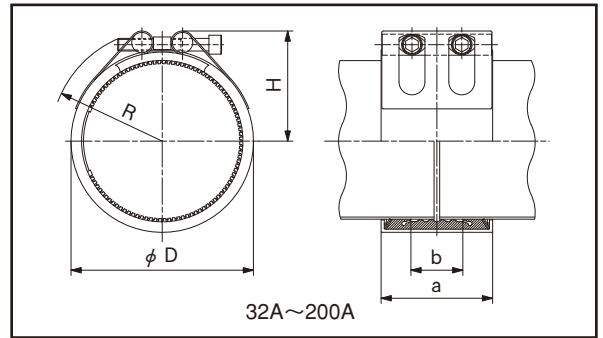
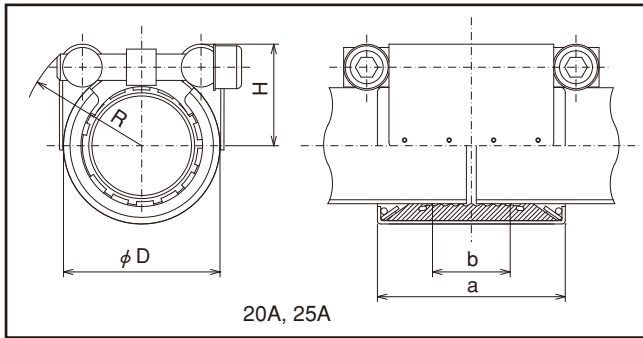
[管引抜け阻止機能付]

構造

(社)日本水道協会品質認証センター認証登録品
(財)日本消防設備安全センター認定品
(湿式配管部分に限る)



品番	名称	材質
①	本体	SUS304
②	ボルト	SUS304
③	棒ナット/ワッシャ	SUS304
④	グリップリング	SUS301
⑤	サポートリング	SUS304
⑥	パッキン	EPDM
⑦	スライド板	SUS304
⑧	スペーサ	プラスチック



適用管サイズ	JIS G3452	配管用炭素鋼鋼管	20A~200A	●
	JIS G3454	圧力配管用炭素鋼鋼管 <td>20A~200A <td>●</td> </td>	20A~200A <td>●</td>	●
	JIS G3448	一般配管用ステンレス鋼管 <td>25Su~200Su <td>▲</td> </td>	25Su~200Su <td>▲</td>	▲
	JIS G3459	配管用ステンレス鋼管 <td>20A~200A (Sch5~Sch40対応) <td>●</td> </td>	20A~200A (Sch5~Sch40対応) <td>●</td>	●
	JWWA G115	水道用ステンレス鋼管 <td>呼び径25~50 <td>▲</td> </td>	呼び径25~50 <td>▲</td>	▲
	JIS K6741	硬質塩化ビニル管 (VP管) <td>呼び径40~200 <td>■</td> </td>	呼び径40~200 <td>■</td>	■
	JIS K6742	水道用硬質塩化ビニル管 (VP管、HIVP管) <td>呼び径40~200 <td>■</td> </td>	呼び径40~200 <td>■</td>	■
	JWWA K116	水道用硬質塩化ビニルライニング鋼管 (SGP-VA、VB管) <td>20A~150A <td>●</td> </td>	20A~150A <td>●</td>	●
	JWWA K132	水道用ポリエチレン粉体ライニング鋼管 (SGP-PA、PB管) <td>20A~100A <td>●</td> </td>	20A~100A <td>●</td>	●

● ▲ ■ は、下表の適用管種に対応します。

寸法表

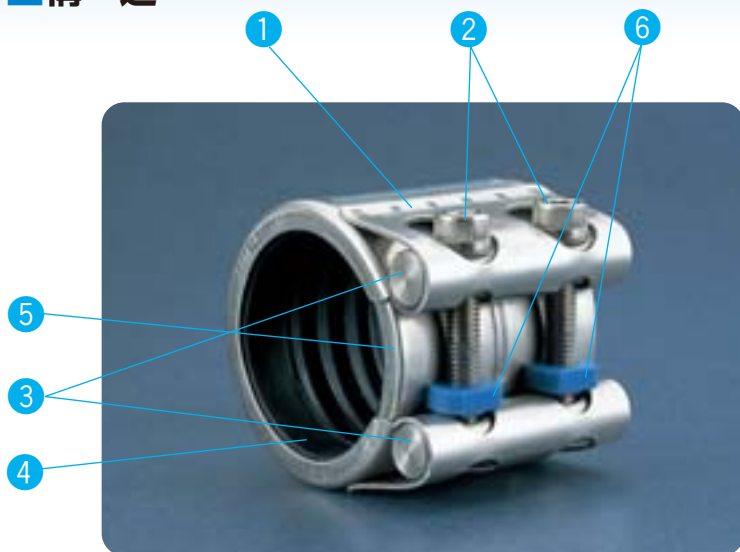
継手の呼び (A)	製作範囲			適用管種			本体				パッキンリップ部の間隔 b (mm)	ボルトの呼び	標準締付けトルク N・m (kgf・m)	最大許容締付けトルク N・m (kgf・m)	質量 (kg)	引抜阻止力 実験値注) (kN)	
	標	日水協品	消防認定品	●	▲	■	外径 φD (mm)	幅 a (mm)	R (mm)	H (mm)						鋼管	SUS
				鋼管 (A)	SUS (Su)	VP管 HIVP管 (呼び径)											
20	●	●		20	25		47	57	42	30.5	19	M8	8 (0.8)	—	0.23	3.2以上	
25	●	●		25	30		52	57	44	34	19	M8	15 (1.5)	20 (2.0)	0.25	4.5以上	
32	●	●		32	40		64	57.5	52	39	22	M8	15 (1.5)	20 (2.0)	0.35	7.2以上	
40	●	●		40	50	40	68	57.5	55	42	22.5	M8	15 (1.5)	20 (2.0)	0.35	9.3以上	
50	●	●	●	50	60	50	84.5	81	72	53.5	32.5	M10	20 (2.0)	26 (2.6)	0.85	14.4以上	
65	●	●	●	65	75	65	101	81	78	63.5	31	M10	20 (2.0)	26 (2.6)	0.95	23.0以上	
80	●	●	●	80	80	75	117	108	88	73.5	50	M12	50 (5.0)	65 (6.5)	1.75	31.2以上	
100	●	●	●	100	100	100	142	108	102	88	50	M12	50 (5.0)	65 (6.5)	2.0	25.6以上	
125	●	●	●	125	125	125	175	121	125	107.5	55.5	M14	90 (9.0)	120 (12.0)	3.9	37.9以上	
150	●	●	●	150	150	150	201	121	160	122.5	55	M14	90 (9.0)	120 (12.0)	4.3	53.5以上	
200	●			200	200	200	256	159	180	159	74	M18	170 (17.0)	220 (22.0)	9.1	91.8以上	

注) 100A以上の引抜け阻止力の値は、耐圧性能から管内圧力により管軸方向に働く引張力として換算した値です。保証値ではありません。

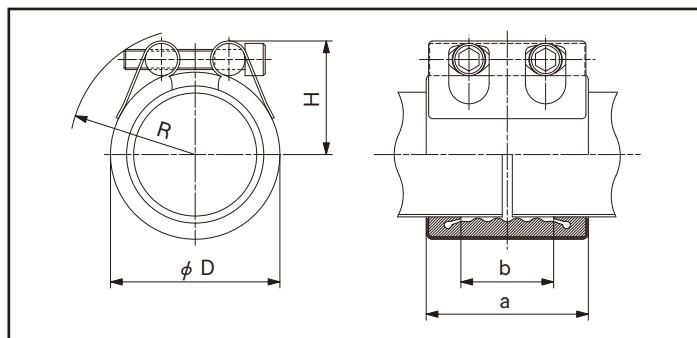
オメガマルチ (HMF-E) [管引抜け阻止機能なし]

構造

(社)日本水道協会品質認証センター認証登録品



品番	名称	材質
①	本体	SUS304
②	ボルト	SUS304
③	棒ナット/ワッシャ	SUS304
④	パッキン	EPDM
⑤	スライド板	SUS304
⑥	スペーサ	プラスチック



適用管サイズ

JIS G3452	配管用炭素鋼鋼管	40A~200A	●
JIS G3454	圧力配管用炭素鋼鋼管	40A~200A	●
JIS G3448	一般配管用ステンレス鋼管	50Su~200Su	▲
JIS G3459	配管用ステンレス鋼管	40A~200A (Sch5~Sch40対応)	●
JWWA G115	水道用ステンレス鋼管	呼び径50	▲
JIS K6741	硬質塩化ビニル管(VP管)	呼び径40~200	■
JIS K6742	水道用硬質塩化ビニル管(VP管、HIVP管)	呼び径40~200	■
JWWA K116	水道用硬質塩化ビニルライニング鋼管(SGP-VA、VB管)	40A~150A	●
JWWA K132	水道用ポリエチレン粉体ライニング鋼管(SGP-PA、PB管)	40A~100A	●

● ▲ ■ は、下表の適用管種に対応します。

寸法表

継手の呼び(A)	製作範囲		適用管種			本体				パッキンリップ部の間隔b(mm)	ボルトのねじの呼び	標準締付けトルク N・m (kgf・m)	最大許容締付けトルク N・m (kgf・m)	質量(kg)
	標準	日本水協品	●	▲	■	外径 φD (mm)	幅 a (mm)	R (mm)	H (mm)					
			鋼管(A)	SUS(Su)	VP管 HIVP管 (呼び径)									
40	●	●	40	50	40	67.5	57.5	55	42	31	M8	10 (1.0)	20 (2.0)	0.34
50	●	●	50	60	50	84	80.5	72	54	47.5	M10	15 (1.5)	26 (2.6)	0.77
65	●	●	65	75	65	100	80.5	78	61	45.5	M10	15 (1.5)	26 (2.6)	0.85
80	●	●	80	80	75	116	107.5	88	72	64	M12	30 (3.0)	50 (5.0)	1.6
100	●	●	100	100	100	143	107.5	102	84.5	65	M12	30 (3.0)	50 (5.0)	1.9
125	●	●	125	125	125	174	117	125	105	71.5	M14	60 (6.0)	100 (10.0)	2.7
150	●	●	150	150	150	196	117	160	120	70	M14	60 (6.0)	100 (10.0)	3.0
200	●		200	200	200	253	156	180	153.5	80	M16	70 (7.0)	120 (12.0)	6.4



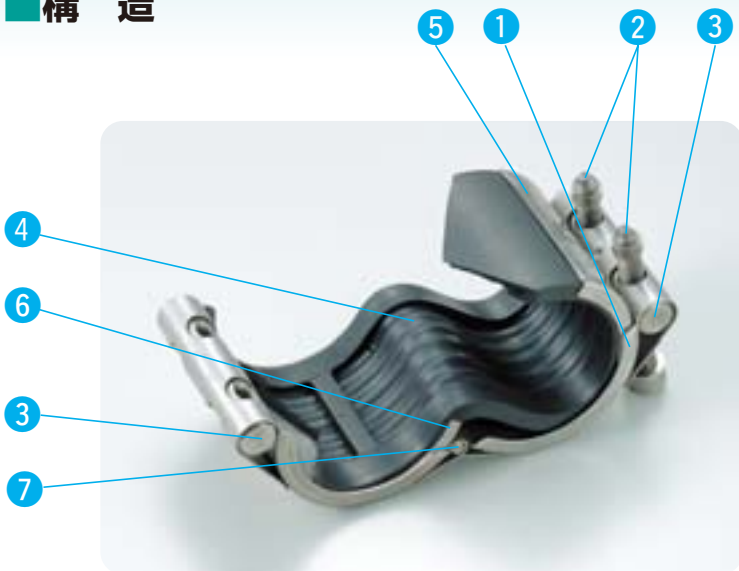
注意

オメガマルチは管引抜け阻止用のグリップリングがないので、使用圧力に応じて管引抜け阻止対策が必要です。

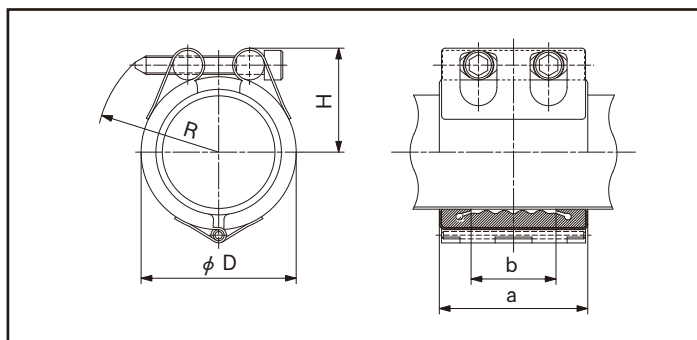
オメガリペア (HRCH-E) [仮補修用]

(社)日本水道協会品質認証センター認証登録品

構造



品番	名称	材質
1	本体	SUS304
2	ボルト	SUS304
3	棒ナット/ワッシャ	SUS304
4	パッキン	EPDM
5	スライド板	SUS304
6	スライド板2	SUS304
7	ヒンジピン	SUS304



適用管サイズ

JIS G3452	配管用炭素鋼鋼管	40A~200A	●
JIS G3454	圧力配管用炭素鋼鋼管	40A~200A	●
JIS G3448	一般配管用ステンレス鋼管	50Su~200Su	▲
JIS G3459	配管用ステンレス鋼管	40A~200A (Sch5~Sch40対応)	●
JWWA G115	水道用ステンレス鋼管	呼び径50	▲
JIS K6741	硬質塩化ビニル管 (VP管)	呼び径40~200	■
JIS K6742	水道用硬質塩化ビニル管 (VP管、HIVP管)	呼び径40~200	■
JWWA K116	水道用硬質塩化ビニルライニング鋼管 (SGP-VA、VB管)	40A~150A	●
JWWA K132	水道用ポリエチレン粉体ライニング鋼管 (SGP-PA、PB管)	40A~100A	●

● ▲ ■ は、下表の適用管種に対応します。

寸法表

継手の呼び (A)	製作範囲		適用管種			本体				パッキンリップ部の間隔 b (mm)	ボルトのねじの呼び	標準締付けトルク N・m (kgf・m)	最大許容締付けトルク N・m (kgf・m)	質量 (kg)
	標	日水協品	● 鋼管 (A)	▲ SUS (S)	■ VP管 HIVP管 (呼び径)	外径 φD (mm)	幅 a (mm)	R (mm)	H (mm)					
40	●	●	40	50	40	67.5	57.5	60	42	31	M8	5 (0.5)	20 (2.0)	0.36
50	●	●	50	60	50	84	80.5	88	54	47.5	M10	8 (0.8)	26 (2.6)	0.80
65	●	●	65	75	65	100	80.5	96	61	45.5	M10	10 (1.0)	26 (2.6)	0.85
80	●	●	80	80	75	116	107.5	115	72	64	M12	20 (2.0)	50 (5.0)	1.6
100	●	●	100	100	100	143	107.5	118	84.5	65	M12	35 (3.5)	60 (6.0)	1.8
125	●	●	125	125	125	174	117	148	105	71.5	M14	50 (5.0)	90 (9.0)	3.0
150	●	●	150	150	150	199	117	160	118.5	70	M14	50 (5.0)	90 (9.0)	3.3
200	●		200	200	200	253	156	190	153.5	80	M16	60 (6.0)	120 (12.0)	7.0

施工方法

■使用工具

ボルト締付け工具には、必ずトルクレンチとレンチソケットを使用してください。トルクレンチとレンチソケットの仕様を下表に示します。

●オメガグリップの場合

継手の呼び (A)	トルクレンチ	レンチソケット	
	調整可能な トルク値	ソケット 寸法	差込み角
20・25	20N・m	6mm	9.5mm
32・40	20N・m	6mm	9.5mm
50・65	26N・m	8mm	9.5mm
80・100	65N・m	10mm	12.7mm
125・150	120N・m	12mm	12.7mm
200	220N・m	14mm	12.7mm

●オメガマルチ、オメガリペアの場合

継手の呼び (A)	トルクレンチ	レンチソケット	
	調整可能な トルク値	ソケット 寸法	差込み角
40	20N・m	6mm	9.5mm
50・65	26N・m	8mm	9.5mm
80・100	60N・m	10mm	12.7mm
125・150	100N・m	12mm	12.7mm
200	120N・m	14mm	12.7mm

■オメガグリップ、オメガマルチの場合

1.パイプ切断

パイプをステンレス管専用のバンドソーや高速カッターなどを使用し直角に切断します。



注意

- ・斜め切りや段差切りは、避けてください。
 - ・パイプの変形した部分は、切り捨ててください。
 - ・パイプ外面の傷がついている部分は、切り捨ててください。
 - ・ローラーカッターは使用しないでください。
- 継手の漏れの原因となります。



2.切断面の処理

パッキンに傷がつかないように、パイプ切断面のバリはやすり等のバリ取り工具を使って取り除きます。



注意

- ・配管作業時には、作業用手袋などの保護具を着用して行ってください。
- ・パイプの切断面等で傷をつける場合があります。



3.マーキング

接続するパイプに、第1表に示す差し込み長さのマーキングをします。マーキング幅は**6mm程度とし**、マーキングのパイプ端面側が第1表のマーキング位置になるようにしてください。

第1表

継手の呼び (A)	適用管種			差し込み長さの マーキング位置
	鋼管 (A)	SUS (Su)	VP管 (呼び径)	
20・25	20・25	25・30		27mm
32・40	32・40	40・50	40	27mm
50・65	50・65	60・75	50・65	39mm
80・100	80・100		80・100	52mm
125・150	125・150		125・150	58mm
200	200		200	77mm



注意

- ・差し込み長さを間違えると、漏れや抜け出しの原因となります。



4. パイプ挿入1

継手を一方のパイプにまっすぐに差し込みます。右図のように**マーキングの端面側**に合わせてパイプを継手に差し込んでください。



注意

- ・オメガグリップの場合、差し込み時にパイプの表面をグリップリングで傷付けないでください。漏れの原因となります。
- ・軸心のずれやマーキング位置のずれは、漏れの原因となります。
- ・オメガグリップの場合、マーキング端面側より深くパイプを差し込むとボルトを締付ける際にパイプが引き込まれ、マーキングが継手に隠れる場合があります。



5. パイプ挿入2

もう一方のパイプを、3項に示すマーキングを施したパイプを4項と同じようにパイプのマーキング端面側が継手の端面と合うまでまっすぐに差し込みます。

注意 ・ボルトが外れた場合は、再組付けができない場合があります。ボルトを外さないでください。

注意 ・オメガグリップは、パイプ同士が継手内で突当たらないように注意してください。締付けトルクが高くなり、十分な締付けが出来ず漏れの原因となる恐れがあります。



6. ボルトの締付け

管のマーキング位置が、ボルト側本体の中央と端部で合っていることを確認の後、第2表の標準締付けトルクにセットしたトルクレンチを使用して標準締付けトルクに達するまで、左右のボルトを交互に数回締付けます。

第2表

●オメガグリップの場合

継手の呼び (A)	標準締付けトルク N・m (kgf・m)	最大許容締付けトルク N・m (kgf・m)
20	8 (0.8)	—
25~40	15 (1.5)	20 (2.0)
50・65	20 (2.0)	26 (2.6)
80・100	50 (5.0)	65 (6.5)
125・150	90 (9.0)	120 (12.0)
200	170 (17.0)	220 (22.0)

●オメガマルチの場合

継手の呼び (A)	標準締付けトルク N・m (kgf・m)	最大許容締付けトルク N・m (kgf・m)
40	10 (1.0)	20 (2.0)
50・65	15 (1.5)	26 (2.6)
80・100	30 (3.0)	50 (5.0)
125・150	60 (6.0)	100 (10.0)
200	70 (7.0)	120 (12.0)

注意 ボルトに砂等の異物が付着している場合はねじがかり付きの原因となりますので取り除いてください。

注意 締忘れ、片締めや左右のすき間の大きな違いは、漏れや抜け出しの原因となります。

標準締付けトルクに達する前にスペーサと本体が当たる場合は、その位置で締付け完了です。無理に標準締付けトルクまで締付けしないでください。

注意 20Aには、スペーサはついていません。標準締付けトルクに達するまで締付けてください。



7. 締付け確認

標準締付けトルクで締付けてあり、標準左右のスペーサと本体が当たっている事を確認します。当たっていない場合は、最大締付けトルクでスペーサと本体が当たるまで締め直してください。

注意 配管の芯ズレなど施工の状態によって、スペーサと本体が当たらない場合があります。その場合は、最大許容締付けトルクで締付けられている事を再度確認ください。最大許容締付けトルクで締付けられていれば、性能には問題ありません。

注意 最大許容締付けトルク以上では締付けしないでください。ボルトが破断する原因となります。



注意

施工方法の詳細は、別刷りの取扱説明書に示されています。施工時には必ず取扱説明書をご覧ください。

■オメガリペアの場合

1. 補修箇所の確認・マーキング

補修部の大きさが第3表の有効止水幅(L)以下であることと、継手取付け部の管表面状態を確認した後、漏れ位置を管表面にマーキングします。

⚠ 注意 ・有効止水幅を超えての使用は漏れの原因となります。
・パッキンと接触する箇所の管表面に凸凹等があると漏れの原因になります。

第3表

継手の呼び (A)	有効止水幅 (L) mm
40	20
50・65	35
80・100	55
125・150	60
200	70



2. 継手の装着

ナット側本体を漏れ箇所の反対側にはめ込むように取付けた後、ボルト側側に出ているゴムパッキンを管に巻付けるようにナット側本体の隙間に差込みボルト側本体を合わせます。

⚠ 注意 ・漏れ箇所にマーキングして継手を正しい位置に装着しないと漏れの原因になります。
・スライド板が、ナット側本体の端に引っかかっていないか、両サイドを充分確認してください。



3. ボルトの締付け

管のマーキング位置が、ボルト側本体の中央と端部で合っていることを確認の後、第4表の標準締付けトルクにセットしたトルクレンチを使用して標準締付けトルクに達するまで、左右のボルトを交互に数回締付けます。

第4表

●オメガリペアの場合

継手の呼び (A)	標準締付けトルク N・m (kgf・m)	最大許容締付けトルク N・m (kgf・m)
40	5 (0.5)	20 (2.0)
50	8 (0.8)	26 (2.6)
65	10 (1.0)	26 (2.6)
80	20 (2.0)	50 (5.0)
100	35 (3.5)	60 (6.0)
125・150	50 (5.0)	90 (9.0)
200	60 (5.0)	120 (12.0)

⚠ 注意 ・締め忘れ、片締めや左右の隙間の大きな違いは、漏れの原因となります。
・オメガリペアにはスペーサはついていません。



4. 締付け確認

ボルト側とナット側の本体の隙間(W)が、揃っていることを確認します。

⚠ 注意 ・最大許容締付けトルク以上では締付けないでください。
ボルトが破断する原因となります。



■漏れ検査

(オメガグリップ、オメガマルチ、オメガリペアに共通)

防露・保温施工前、内装前に漏れ検査を行います。配管内の空気を抜き、満水にした後検査圧力を加え、各接続部より漏れと抜け出しのないことを確認してください。

⚠ 注意

施工方法の詳細は、別刷りの取扱説明書に示されています。
施工時には必ず取扱説明書をご覧ください。

施工上の注意

- ◆ 配管施工時は、管に内圧が加わっていないことを確認してください。
- ◆ 管の支持は、斜め接続許容差の±2°を超えないように行ってください。
- ◆ 屋外のような腐食しやすい環境で使用する場合は、防食テープなどによる防食処理を施してください。
- ◆ 熱膨張などで配管の伸縮量が大きい場合は、必ず伸縮継手などを設置してください。
- ◆ 配管が凍結すると、管が継手から抜け出したり、パッキンの劣化が促進されるなどの不具合が生じて漏水につながる場合があります。
水抜きを徹底するか、又は凍結しないように保温・循環などの処置を施してください。
- ◆ 溶接継手・管の突合せ溶接などで配管系統を溶接する場合は、オメガシリーズのパッキンが溶接時の高温の影響を受けないようにしてください。パッキンが熱影響を受けて劣化し、漏水の原因となります。
- ◆ 配管後の継手部には、引張り・曲げ・回転などの過大な荷重が加わらないように、配管支持を確実に行ってください。
- ◆ 継手から漏れが生じて増し締めする場合は、最大許容締め付けトルク以上で締め付けしないでください。その場合、丁寧に継手を外して、継手と管端の状態が接続に適切か確認の後、再締め付けを実施してください。
- ◆ 本継手は構造上鋭利な部分がありますので、配管作業時には作業用手袋等の適切な保護具を着用して行ってください。
- ◆ 継手の再使用はできません。
- ◆ パイプが継手内で突き当たった状態や、両端のパイプが管軸方向に固定された状態でオメガグリップのボルトを締め付けると、継手内部のグリップリングが固定されて十分な締め付けができず、漏れの原因となることがあります。立て管の接続や結び配管等を行う場合に、それらの状態になることが避けられない場合は、オメガグリップは使用できません。オメガマルチをご使用ください。

- ・本カタログの掲載内容は、2010年11月現在のものです。
- ・本カタログに掲載の商品は、仕様、外観などを予告なく変更することがあります。
- ・本カタログに掲載している商品の色は、印刷の関係上、実際と若干異なる場合があります。
- ・本カタログの掲載内容は、すべて当社に著作権の存するものです。無断の複製は固くお断りいたします。
- ・ご不明な点は、お近くの支店・営業所にお問い合わせください。
- ・Ⓜは日立金属の登録商標です。
- ・誤った使用方法、取扱上の不注意や風水害、地震、雷などの天災および火災、公害（特殊環境）、塩害、戦争、テロなどの不可抗力、その他当社責任と認められない損害には、当社は一切責任を負いません。

取扱店

本カタログ記載の住所、連絡先は2010年11月現在のものです。
変更になる場合もございますので、お電話やファクシミリが繋がらない場合は、
お手数ですが、下記までご連絡をお願い申し上げます。
日立金属株式会社 Tel. (03) 5765-4076 ☎ 0800-500-5055
コミュニケーション室 Fax. (03) 5765-8312 Email : hmcc@hitachi-metals.co.jp

カタログ番号 HL-K270-N
2010年11月作成 (M-MT3)

日立金属株式会社

<http://www.hitachi-metals.co.jp>

本 社	〒105-8614 東京都港区芝浦一丁目2番1号(シーパソン館) 配管機器カンパニー 継手営業部
	☎ (03) 5765-4298 FAX (03) 5765-8313
北 日 本 支 店	☎ (022) 267-0216 FAX (022) 266-7891
北海道営業所	☎ (011) 221-1786 (代表) FAX (011) 222-4273
新潟営業所	☎ (025) 241-5421 FAX (025) 243-2558
中部東海支店	☎ (0594) 24-2158 FAX (0594) 24-2722
北陸営業所	☎ (076) 420-2881 (代表) FAX (076) 491-5201
静岡営業所	☎ (054) 202-1580 (代表) FAX (054) 202-1588
関 西 支 店	☎ (06) 6203-9704 FAX (06) 6202-0730
中 国 支 店	☎ (082) 221-4486 (代表) FAX (082) 221-4488
九 州 支 店	☎ (092) 432-8603 FAX (092) 451-8620

